

# 面的評価支援システム

操作マニュアル（別冊）

F A Q 集編

Ver 5.3.0

令和 7 年 3 月



環境省水・大気環境局 モビリティ環境対策課

## はじめに

「面的評価支援システム操作マニュアル（別冊）FAQ集編」は、利用者からのご質問についてまとめたものです。

## 目次

I	FAQ一覧 .....	1
1	FAQ一覧 .....	2
1-1	区分1：システム .....	2
1-2	区分2：初期設定 .....	4
1-3	区分3：要素設定（道路設定） .....	5
1-4	区分4：要素設定（沿道設定） .....	6
1-5	区分5：要素設定（騒音設定） .....	9
1-6	区分6：騒音推計 .....	10
1-7	区分7：常時監視フォーマット .....	14
1-8	区分8：結果活用 .....	16



## I F A Q一覽

---

# 1 FAQ一覧

## 1-1 区分1：システム

区分1:システム

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
1	システムについて	幾つかの評価区間に対して、それぞれ、別々のパソコン上で面的評価を実施した場合、それらの結果(騒音暴露状況の住居等一括表示等)を1つのパソコンに一括で表示することはできませんか。	支援システムは、複数のデータを一つのデータにまとめることはできません。このため別々のパソコンで実施した面的評価結果データを一括で表示することはできません。	
1	ネットワーク未接続パソコンへのセットアップについて	システムをセットアップするパソコンはネットワークに接続できない状態なのでネットワークに接続されたパソコンでダウンロードし、CD-ROM等に書き込んで目的のパソコンでセットアップすることは可能ですか。	可能です。ただし、ネットワーク機能を有する機能については制限されます。また、各地方公共団体は国土地理院数値地図25000(空間データ基盤)およびGISエンジンをダウンロードして使用することができますが必ず1台のパソコンにのみインストールしてください。 ①国土地理院数値地図25000(空間データ基盤)は各地方公共団体に対して、原則として1つのパソコンのみインストールする承認を国土地理院より得ています。 ②GISエンジン(「面的評価支援システム(環境省)」版「ActiveMap for.NET」)は、各地方公共団体に対して、原則として1つのパソコンのみインストールするライセンスを、株式会社カーネルより得ています。 詳細は環境省ホームページより「大気環境・自動車対策」>騒音・振動・臭気対策>騒音対策>自動車騒音について>自動車騒音常時監視支援について>1.はじめにお読みください」	
1	システムのセットアップについて	システムのセットアップファイルを解凍するとエラーが発生します。  WindowsXpの場合システムの更新を実行した場合、設定はデフォルトに戻るのででしょうか。	パソコンにログインしているユーザーに管理者権限がないため、パソコン管理者に相談しログインユーザーに権限を与えてください。  OSがXPの場合は、以下の作業をお願いします。(OSがWIN7の場合は必要ありません。)  システムの更新を行うと、動作環境設定及び初期設定はデフォルトに戻ります。但し、以下の作業により設定を引き継ぐことができます。 ①システムを更新する前に、[C:\Program Files\面的評価支援システム]フォルダ内にある以下のファイルを、別のフォルダにコピーする。 (1) NoiseMap.xml (2) MapConfig.xml (3) NoiseMapInitParam.xml ②システムを更新する。 ③①でコピーしたファイルを元に戻す。	Ver4.0.0未満
1	環境GISユーザーについて	環境GIS作成ユーザーでログインして、騒音測定地点データ選択画面で登録できません。	システムの全機能を使用するユーザーと環境GIS作成のみのユーザーではログイン名が異なります。ログイン名(システムの全機能を使用するユーザー)を確認し実施してください。(システム操作マニュアル(本編)Ⅲ-2頁参照)	
1	再インストールおよび再評価について	再インストール方法および再評価手順について教えてください。	「システム操作マニュアル(本編)」を参照してください。	
1	作成したデータの他パソコンへの移行方法	作成したデータの他パソコンへの移行方法とデータのバージョンアップ方法を教えてください。	手順 ①移行先パソコンへシステムをセットアップする。 ②地図データのセットアップ。 ③既存PCのMENTEKI.DATAを移行パソコンにコピーする。 ④UPDATEツールによりMENTEKI.DATAをバージョンアップする。	
1	システム起動時の認証エラーについて	システムを起動したとき、「認証に失敗しました。システムを終了します」というメッセージが表示され、システムが起動できません。  システムをインストール後、プログラムを起動するとエラーが表示されます。	GISエンジンと面的評価支援システムの組み合わせ不一致によるエラーです。 ・一般用「面的評価支援システム」をセットアップした場合、販売されているGISエンジン(「面的評価支援システム(環境省)」版「ActiveMap for.NET」)でない場合は、お問い合わせのエラーが表示されます。 ・地方公共団体用「面的評価支援システム」の場合は、地方公共団体用GISエンジンをインストールしてください。  地図のインストールおよび動作環境設定が行われていないためです。 地図のインストール及び動作環境設定を「システム操作マニュアル(本編)」を参照しセットアップしてください。	
1	システム起動時のエラー	・システムを起動するとオフラインとメッセージがでて、地図が表示されない。	動作環境設定、キャッシュ作成がされていない可能性があります。キャッシュ作成を行ってください。	
1	バージョンチェックのエラーについて	システム起動時にバージョンチェック失敗と表示されます。	システム起動時のネットワーク状態及びネットワーク環境により失敗する場合があります。 この場合は、「OK」を選択して次へ進んでください。もしくは、動作環境設定でバージョンチェックをしないように設定してください。	
1	Zmap-TOWN II (ゼンリン)について	GISデータの作成が終了し、今後、システムを導入し評価を実施することを考えています。 ①Zmap-TOWN II (ゼンリン)の地図及びOA-Light III (ゼンリン)両方が必要でしょうか。 ②DMフォーマットは国土交通省から入手できますか。  Zmap-Town II (ゼンリン)入れ替えに伴い、建物情報を更新したいが、手順を教えてください。  2つ以上の市町村の地図データ(Zmap-TOWN II (ゼンリン))を読み込むことはできますか。	①Zmap-TOWN II (ゼンリン)の地図のみ必要です。 ②地方公共団体のDMフォーマット(都市計画基本図等)を作成している部署に、お問い合わせください。  建物オブジェクトを削除し、建物オブジェクト作成から再度実行してください。  地図データのセットアップ時に、既存の地図環境を選択することにより、地図データを追加することができます。	
1	OA-TOWN II (ゼンリン)の利用について	OA-TOWN II (ゼンリン)は利用できませんか。	利用可能です。	
1	国土地理院数値地図25000(空間データ基盤)のセットアップについて	国土地理院数値地図25000(空間データ基盤)のセットアップに失敗します。	古い地図環境を削除し、「システム操作マニュアル(本編)」を参照してセットアップしてください。その際に解凍したファイルに「Maplafa.mdb」ファイルの有無をチェックしてください。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

区分1:システム

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
1	システムのバージョンアップについて	システムを最新Verにして旧Verで使っていたデータを使いたい方がどうすれば良いでしょうか。	「政府共通NW/LGWAN掲示板システム」自動車騒音常時監視事務支援フォーラム( <a href="https://glibbs.ge.x.admix.go.jp/">https://glibbs.ge.x.admix.go.jp/</a> )にあるデータのバージョンアップツールをダウンロードし、データのバージョンアップを行ってください。データはそのまま移行されます。	
		更新は、環境省の自動車騒音常時監視事務支援サイトにある面的評価システムのプログラムとデータの更新のみで良いでしょうか。	そのとおりです。なお、過年度から支援システムを利用されている場合は、システムデータの新たなダウンロードは必要ありませんが、支援サイトのシステムデータのバージョンアップツールにてバージョンアップを実施してください。	
		システムをバージョンアップし、動作環境設定のキャッシュ作成を行うと、「データベースアクセス中にエラーが発生しました」というメッセージが表示されます。	ユーザレイヤDBが破損しているため、最適化を行い修復してください。修復ができない場合は、データを送付してください。	
		システムのバージョンアップが出来ません。	旧バージョンをアンインストールしてください。	
		Ver3.2.0でキャッシュは出来ましたが、システムを起動するとエラーがでました。	Ver3.2.0よりマルチコアの対応を行いましたので、OSがWindowsXpのSP3以上でないと作動しません。「システム操作マニュアル(本編)」の2. 動作環境を参照ください。	Ver3.2.0
		Windows Xpで作業すると、過年度データが正しく移行できません。	Ver3.3.2より.NET framework2 SP1以上が必要となります。 .NET framework2 SP1 または .NET framework3.5をインストールしてください。	Ver3.3.2以降
1	データベースのアップデートについて	ver5.0.0からver5.2.2へのデータベースのアップデートが終わりません。	ver5.0.0からver5.2.2へのデータベースのアップデートには時間がかかります。入力されている自治体の規模、パソコンのスペックにより、数時間から十数時間かかる場合があります。	Ver5.2.2以降
1	キャッシュ作成について	キャッシュ作成を行うとファイルアクセスエラーが発生する。	キャッシュフォルダ内のファイルが破損しているため、キャッシュフォルダ内のファイルを全て削除して、再度実行してください。	
		キャッシュ作成時に「オブジェクト参照がオブジェクト インスタンスに設定されていません。」のエラーが発生する。	ユーザレイヤDBの一部リンクコードが破損しているため、エラーが発生しています。利用者では修復できませんので、データを送付してください。	
1	地図の表示について	複数の市区町村の地図を表示するにはどうすれば良いでしょうか。	同一の地図環境に全市区町村の地図のインストールが可能で、表示もできますので、インストールしてください。	
		地図の表示が出来ません。	初めてインストールした場合、地図表示位置が設定されていないため表示されません。このため検索機能の住所検索で地図表示を行って下さい。	
1	リンクコード検索について	リンクコードで検索するにはどうすれば良いでしょうか。	検索機能のその他検索を使用してください。	
1	バックアップファイルについて	バックアップするファイルは、dorodb.mdbとUlayerR4DotNet.mdbだけで良いでしょうか。	そのとおりです。	
1	評価手順について	騒音測定→評価の場合、次の手順が必要と考えていますが、不要な手順や抜けている手順等を教えてください。 ①初期設定→基準年度(作成または選択) ②騒音設定→騒音測定地点→(1)騒音測定地点(新規時)→(2)断面設定(新規、マイク位置等の変更時) ③騒音測定データ→(1)データ入力(インポート、エクスポートで実施予定) ④騒音推計前→騒音基準位置→(1)騒音基準位置設定(実行不要?)→騒音測定データ選択(全地点について毎年設定?) ⑤騒音レベル→基準点騒音レベルの推計→基準点騒音レベルの確定→残留騒音レベルの確定	④の騒音基準位置設定については、新規で評価区間を作成した場合のみ設定が必要です。騒音測定データ選択については、選択する騒音測定地点の年度、一連番号が前年度と異なる区間のみ設定が必要です。 ⑦のオブジェクトデータチェックについては、新規で騒音測定地点を作成した場合のみ実行してください。データ項目については、騒音測定データ整理表のみ実行してください。	
		新規で1路線の評価を行う場合は、「2. 道路設定」から始めれば良いでしょうか。	道路設定からはじめてください。	
1	Windows7について	Windows7のOSで64ビットがありますが、Ver3.0.0では使用できますか。	利用できません。32ビットのOSを利用してください。なお、H25.5に64ビットで使用可能なシステムを更新予定です。	Ver3.0.0以降
1	数値地図25000(空間データ基盤)について	数値地図25000(空間データ基盤)でシステムを開いたら、道路が線でしか表示されず、マニュアルに載っているような家の表示もありません。	数値地図25000(空間データ基盤)は、道路、鉄道、水系、行政界、水準点の線及び点データしかありません。このため、道路の官民境界や建物の輪郭はありません。よって、道路の官民境界や建物の輪郭を表示させる場合、他の電子地図を使用する必要があります。	
1	一般公開用Ver3.1.1について	一般公開用のバージョン3.1.1にバージョンアップしたら、道路断面の設定が出来なくエラーが発生します。	EXEファイルの解凍時に正常に解凍出来ないか、ダウンロードで失敗した可能性がありますので、再度支援サイトからダウンロードからやり直してください。	
1	使用出来る地図について	支援システムでそのまま使用出来る地図を教えてください。	支援システムで使用出来る地図は、以下の通りです。 ・数値地図25000(空間データ基盤) ・数値地図50mメッシュ ・数値地図250mメッシュ ・基盤地図情報25000(平成26年7月以前の基盤地図情報旧データを利用して下さい。) ・Zmap-Town II ・Zmap-AREA25 ・Zmap-AREA200 ・Zmap-AREA II (ActiveMap書式用) その他の地図は、地図代他に交換費用が伴います。	
		地図の特徴を教えてください。	主な地図の特徴は、以下の通りです。 ・数値地図25000(空間データ基盤)(広域を表示する際に便利ですが、評価には必要ありません。) ・基盤地図情報25000(市街地では不向きです。また、建物情報がありません。) ・Zmap-Town II(高額ですが、建物情報等全て取れます。) ・DMフォーマット(内容は作成する地体による。なお、交換費用が必要ですが、地体で作成されていますので地図代が不要です。)	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5. 3. 0 までが対象である。

## 1-2 区分2：初期設定

区分2:初期設定

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
2	数値地図25000(空間データ基盤)について	地図データについてですが、数値地図25000(空間データ基盤)でシステムを開いたら、道路が線でしか表示されず、オブジェクト作成時中央に作成するようになっているが、それが出来ません。数値地図25000(空間データ基盤)ですとそういうものなのでしょうか？あとマニュアルに載っているような家の表示も出ません。	数値地図25000(空間データ基盤)は、道路、鉄道、水系、行政界、水準点の線及び点データしかありません。このため、道路の官民境界や建物の輪郭はありません。よって、道路の官民境界や建物の輪郭を表示させる場合、他の電子地図を使用する必要があります。	
2	数値地図25000(空間データ基盤)について	数値地図25000(空間データ基盤)を国土地理院からダウンロードしようとしてもありません。どこを見ればよいのでしょうか？また、評価に必要ですか？	数値地図25000(空間データ基盤)は、国土地理院からダウンロードできません。必要な場合は地図センターなどから購入してください。 なお、変換ツールで変換が出来ない場合がありますので、その場合は、お問合せください。 また、数値地図25000(空間データ基盤)は、評価に必要ありません。 数値地図25000(空間データ基盤)以外の地図をインストールされている場合は、別途数値地図25000(空間データ基盤)をインストールする必要はありません。	
2	基準年度によるデータ管理について	基準年度2006で騒音測定地点を登録した場合、データ管理で見ると年度が2006の測定地点データができています。これをエクスポートしてcsvデータ内の年度を2007に修正し、インポートしてデータ管理で見ても年度が2007に変更されません。これは、旧年度データを保持するためそうなっているのでしょうか。	左記の方法でインポートした場合、2006年度の騒音測定データは保持し、2007年度の騒音測定データが新規作成されます。2007年度の騒音測定データは、騒音測定データ整理表画面の年度を2007に変更し、検索ボタンをクリックすると表示されます。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5. 3. 0 までが対象である。

1-3 区分3：要素設定（道路設定）

区分3：要素設定（道路設定）

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
3	道路平面線形オブジェクトの作成について	情報入力しようと線形オブジェクトを選択すると、「表示した位置に、評価区間オブジェクトが2つ以上存在します」というエラーメッセージが表示されます。	同じ位置に評価区間オブジェクトが重複しているため、不要なオブジェクトを削除してください。	
		道路平面線形オブジェクトは、長めに設定したほうが良いでしょうか。	はい、長めに設定してください。道路平面線形オブジェクトは、最大、路線の市境界から市境界まで1本で作成してください。	
		厳密に評価対象道路の中央に作成できない場合、後に行う推計結果に影響するのでしょうか。	道路平面線形オブジェクトは推計結果に影響しませんが、道路端オブジェクトは推計結果に影響するため、厳密に作成する必要があります。	
3	併設道路の設定について	併設道路の基準点騒音レベル、残留騒音レベルについては、どのように設定すれば良いでしょうか。	併設道路については、基準点騒音レベル、残留騒音レベルの設定は必要ありません。	
3	道路平面線形の情報入力について	道路線形オブジェクトに基準年度毎に分ける必要はあるでしょうか。	分ける必要はありません。	
		騒音調査した区間がセンサ調査対象区間ではない場合に、道路平面線形の情報入力のうち、「交通センサ対象フラグ」のチェックをはずすと、何か影響がありますか。	影響ありません。	
3	道路情報登録エラーについて	基準年度2007を新規作成後、新しい測定地点を設定するため、騒音設定→騒音測定地点→設定位置をクリック→騒音測定地点の設定画面表示→枝番、一連番号等入力→登録を実行すると「入力された道路情報は登録されていません」というメッセージが出て登録できません。	該当の評価区間情報が登録されていないため、評価区間情報を再登録してください。	
3	道路交通センサについて	面的評価を実施するために必要な、センサ整理表の項目を教えてください。 ※交通センサデータは無く、手作業で入力。 ※分からない項目を添付資料に示す。	面的評価に必要な以下の項目を入力ください。 ・自動車類交通量 ・平日昼夜率 ・平均自動車類12時間交通量	
		センサデータ整理の市区町村コードと他で入力するコードを合わせる必要があるのでしょうか。	合わせる必要があります。騒音推計時にセンサデータを検索するのに必要となります。	
		センサ情報の登録を行うと、「道路情報が登録されていません」というメッセージが表示されます。	道路平面線形オブジェクトとセンサ線形オブジェクトが正しくリンクしていないため、センサ線形オブジェクトを削除し、再作成を行ってください。	
		センサ情報を選択し、「道路交通センサ区間情報入力 詳細」にて登録を押すとエラーが出る。 エラー内容：センサ情報がない	H17センサとH22センサでは路線番号が変更になっている場合があるため、路線番号を確認し、道路平面線形要素の情報を修正してください。	
		センサの起終点の市が違う場合はどうすれば良いでしょうか。	市をまたぐセンサ区間の場合は、各市境界でセンサ区間を区切って、情報入力の際に該当するセンサデータを参照する設定を行ってください。	
3	断面作成について	システムでは道路平面線形の標準断面、評価区間の標準断面、街区の標準断面と測定地点の断面を設定することになっておりますが、正確な予測を行うには各断面が必要でしょうか。	道路平面線形の標準断面、評価区間の標準断面、街区の標準断面と測定地点の断面を正しく作成してください。街区の標準断面は確認として利用していますが評価には使用していません。	Ver5.2.0未満
		断面作成時に路線選定ができません。	センサと評価区間の調査単位区間番号等の整合性が取れていないため、調査単位区間番号と評価区間番号を正しく設定してください。	
		排水性舗装等の施行後年数が分かりません。	分からない場合は、舗装の状態等に応じて想定される施工後年数を入力されるか、中間値である3年を入力してください。	
		断面作成途中の路線選定でエラーが表示されます。	別の路線が同じセンサ情報を利用しているため、以下の手順で変更及び再登録を行ってください。 ①センサデータ整理で、仮のデータを作成する。 ②センサ情報入力において、一方を仮のデータで登録する。 ③評価区間情報入力において、再登録。 ④評価区間断面作成。 ⑤センサ情報入力において、仮のデータを元のデータで再登録。	
		複雑な道路断面の場合も、街区別の標準断面を1つ設定すると思いますが、道路端の予測値は同じと考えて良いでしょうか。	推計は、区間内で騒音発生強度がほぼ同じと思われる評価区間単位で行います。従って、基準点騒音レベルの確定値も評価区間で上下別に1つ設定され、全ての街区において同じ値となります。評価区間内で道路構造や環境対策が異なる区間が存在する場合には、区間内の騒音発生強度がほぼ同一と思われる区間に分割してください。	
		現在作業を行っている評価路線において、道路断面に遮音壁を設置しても予測結果に反映されません。当該センサ区間においては、ほぼ全区間に遮音壁が設置されておりますが、騒音測定は遮音壁の設置がない場所で実施しております。また、道路構造は概ね盛土+切土（掘削）構造と陸橋となっています。遮音壁の効果を得るためには、断面の作成方法にポイントがあるのでしょうか。	評価区間は、道路構造、遮音対策の状況に応じて設定してください。	
		騒音測定地点断面を作成したが、路線登録できません。	断面作成前に路線選定を行っていないため、路線選定をおこなってから、断面を作成してください。	
		断面作成ができません。	路線番号が正しく設定されていないため、路線番号を修正してください。	
		評価区間断面の上位継承が実行できません。	路線番号にセンサの調査単位区間番号が設定されていたため、上位データの継承が正しく行われていない。正しい路線番号を設定してください。	
		3	センサオブジェクト作成時エラー	道路平面線形オブジェクトを区切り、センサオブジェクトの自動作成を行うとアプリケーションエラーが発生します。
3	区切り線について	センサ区切りと評価区間区切りは、どちらを外側にするか等の指定はあるのでしょうか。	センサ区切りと評価区間区切りの位置関係に区別はありません。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

## 1-4 区分4：要素設定（沿道設定）

区分4：要素設定（沿道設定）

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
4	市区町村オブジェクトについて	以下の場合、市区町村オブジェクトが自動生成されません。 ①市区町村エリアの含まれていない地図を利用した場合。 ②市区町村オブジェクトが複数の図案にまたがっている場合で、元となる市区町村エリアの図案が密接につながっていない場合。	手動にて市区町村オブジェクトを作成してください。	
		市区町村合併した区間の修正手順を教えてください。	市区町村合併した区間の修正は以下手順で行ってください。 ①市区町村オブジェクト修正 ②センサデータ整理 ③センサ情報修正 ④評価区間情報修正 ⑤騒音測定地点情報修正	
		市町村のZmap-TOWN II（ゼンリン）を用いた際、「市町村エリアオブジェクトの作成が完了しました」と表示されますが、画面上に何も表示されません。手動入力が必要なのでしょうか。	市区町村エリアオブジェクトには、塗潰しの色がなく、枠線が橙色で表示されます。市区町村エリアオブジェクト作成後、地図上の市境に橙色の線が作成されているか確認してください。また、市区町村エリアの情報入力を行う際に、地図をクリックした位置に市区町村エリアオブジェクトが作成されていれば、情報入力画面が表示されます。	
4	都市計画用途地域について	いずれの都市計画用途地域も非表示にしているにもかかわらず、常時表示されているポリゴンがあります。また、このポリゴンの色は、用途地域ポリゴンを作成中のときと同じ色です。	キャッシュに不整合なデータが残っているため、キャッシュ作成を実行して、システムを再起動してください。	
		都市計画用途地域オブジェクトを修正すると、再評価が必要になるでしょうか。	都市計画用途地域オブジェクトの修正によって、属する都市計画用途地域が変わる建物があれば、建物データを修正し、集計、常時監視フォーマット作成を再度実行してください。 なお、都市計画用途地域の変更に伴い環境基準類型指定の変更が生じた場合には合わせて変更してください。	
		都市計画用途地域を分割ツールにより分割したが分割できません。 ※分割ツールを選択すると十字カーソルに変化する。	分割操作の手順に問題があるため、システム操作マニュアル（本編）を参照してください。	
		都市計画用途地域のデータチェックを行うと、重複していないオブジェクトで重複エラーのメッセージが表示されます。	都市計画用途地域オブジェクトの確認を行って頂き、問題が無ければエラーを無視してください。 また、用途地域オブジェクトが重なっている場合は、住居系が優先されます。	
4	評価区間について	評価区間番号について、県固有の7桁の番号で報告しなくてはならないが、システムでは6桁しか入力できません。	システムの評価区間番号は「調査単位区間番号」(6桁) - 「区間分割番号」(2桁)としているため、報告データをエクスポートし、ファイルのデータ修正を行ってください。	
		評価区間情報入力で、オブジェクトが2つ以上存在します。	不要な評価区間線形オブジェクトは削除してください。	
		縦断勾配の設定は下り坂の場合はマイナス値を入力するのでしょうか。	縦断勾配は、上り坂は正の値、下り坂は負の値を入力してください。なお、上り側と下り側で上下対称となりますのでご注意ください。	
		基準点騒音レベル推定値(実測交通量)が"0"になっています。	騒音測定データに実測交通量が登録されていないためです。もし実測交通量データがある場合には登録後に基準点騒音レベルの再推計を行ってください。	
		評価対象道路は、騒音測定地点のある評価区間を指定すれば良いのでしょうか。	評価対象道路は、騒音測定の実施の有無に関わらず環境基準評価(面的評価)を行う区間です。従って、騒音測定を実施していない区間でも指定可能です。	
		評価区間の主併情報は変更できますか。	主併情報変更は以下の手順で行ってください。 ①評価区間情報入力 ②道路に面する地域情報入力 ③距離帯オブジェクト作成	
		騒音発生強度の把握の方法2(他の評価区間における騒音測定結果を準用する)区間についても、騒音基準位置の騒音測定データを選択するのでしょうか。	騒音基準位置の騒音測定データ選択は、騒音発生強度の把握の方法1(沿道騒音レベルの実測による方法)および騒音発生強度の把握の方法2(他の評価区間における騒音測定結果を準用する)区間について行ってください。	
		重複している評価区間線形オブジェクトの削除方法を教えてください。	システム操作マニュアル(本編)参照し、評価区間線形オブジェクトの作成を選択し、「矢印」から、右クリックで削除してください。	
4	評価区間エラーについて	評価区間データチェックを行うと、過年度に作成した評価区間において、エラーが大量に表示されます。	過年度の設定区間についてのエラーは修正してください。	
		過年度に評価した区間のエラーチェックでエラーメッセージが出ました。対処方法を教えてください。	過年度のデータが移行されていないため、2005年度データを今年度(2006年度)のデータとして報告する場合には、データの年度移行が必要です。以下の手順で年度移行を行ってください。 ①基準年度設定(2006年) ②評価区間情報入力 「評価区間情報入力 詳細画面」において「登録」ボタンを選択 ③建物属性把握 ④騒音推計前からの一連の作業 なお、2005年度データを今年度(2006年度)のデータとして報告しない場合には、該当区間に関するエラーは無視してください。	
4	評価対象外フラグについて	システムに登録されている評価区間情報を評価結果から外すにはどうすれば良いでしょうか。	データ管理の沿道情報データ整理表の評価対象外フラグを"1"に設定してください。	
		評価対象外の評価区間情報は登録する必要がありますか。	評価対象外の評価区間情報は登録する必要はありません。	
		評価を行う区間とGIS出力のみを行う区間がある場合どうすれば良いでしょうか。	評価対象外フラグの切り替えを行ってください。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5. 3. 0 までが対象である。

# 1 FAQ一覧

区分4: 要素設定(沿道設定)

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
4	道路に面する地域について	道路に面する地域オブジェクトが作成されません。	道路端と区切り線が交差していないため、区切り線を延長してください。	
		道路に面する地域オブジェクト作成を実行しようとすると、「指示した位置に評価区間線形オブジェクトが2つ以上存在します」というエラーが表示されます。	評価区間線形オブジェクトが重複して書かれているため、エラーが発生している評価区間線形オブジェクトを全て削除し、再作成してください。	
		他の市区町村のセンサスを持つ評価区間の道路に面する地域オブジェクトが作成できません。	センサス線形オブジェクトの情報(道路種別等)が正しく設定されていないため、線形オブジェクトを再作成し、再度情報入力を行ってください。	
4	距離帯について	距離帯(40~50m)のオブジェクトのリンクコードが設定されていません。のメッセージが表示されます。自動作成・手動作成を何度か試みましたが、解決に至りません。距離帯を指定するとリンクコードは表示されます。	距離帯の情報が評価区間に正しく関連づけられていないため、距離帯オブジェクトの自動作成後、距離帯オブジェクトの情報入力を手動にて行って下さい。	
		距離帯オブジェクトの自動作成について、一部20mのオブジェクトが作成されません(他は作成される)。	20mのオブジェクトが30mのオブジェクトに重なっているため消されています。道路端オブジェクトの頂点の位置を修正してください。	
		距離帯オブジェクトの自動作成について、10m~50mのオブジェクトが作成されません(0~10mは作成される)。	路端オブジェクトの起点終点が逆になっていたため、道路端オブジェクトを修正し、再度距離帯オブジェクト作成を実行してください。	
4	近接空間オブジェクト作成について	近接空間オブジェクト作成を行うと、完了メッセージが表示されませんがオブジェクトが作成されてません。	道路端情報の設定が違っているため、正しい道路端情報を再入力し、道路に面する地域を再作成してください。	
4	街区オブジェクトについて	街区の情報入力時に、区切り線が消えてしまいます。	情報入力に区切り線は必要ないため、表示していません。	Ver5.2.0未満
		評価区間を区切って街区オブジェクトが作成されません。	道路に面する地域オブジェクトの形状が変形しているため、正しく街区オブジェクトが作成できていない。「システム操作マニュアル(本編)」を参照し、道路に面する地域オブジェクトを修正してください。	Ver5.2.0未満
		情報に同じ区間の街区が関連付けられています。	リンクコードが重複しているため、重複している街区オブジェクトを削除し、情報の再登録を行ってください。	Ver5.2.0未満
		街区番号のリンクコードが重複しています。	「結果活用」、「データ管理」、「3データ削除」、「3リンクコード削除」でエラー表示されているリンクコードを削除した後、最適化を実施し、再度情報を入力して下さい。	Ver5.2.0未満
		街区オブジェクトは有りますが、情報が入力できません。なお、画面上では情報は確認できます。	評価区間に関係データが全てないためです。情報とオブジェクトデータだけが画面上に残っていますので、オブジェクトを全て削除してから再度オブジェクト作成し、情報を入力してください。	Ver5.2.0未満
4	街区断面作成エラーについて	街区断面の路線リストにデータが表示されません(街区情報あり)。	道路情報、センサス情報、評価区間情報の路線番号・センサス番号に不整合が発生しているため、各情報の路線番号・センサス番号を正しく登録してください。	Ver5.2.0未満
4	街区断面作成について	街区断面は作成する必要はありますか。	街区断面は評価では使用しません。使用者が街区の道路構造を確認するために利用しています。従って、評価を実施する上においては作成する必要はありません。	Ver5.2.0未満
4	街区オブジェクトのデータチェックについて	街区オブジェクトのデータチェックを行うと、「ER0311街区関係データが存在しません。」というエラーメッセージが表示されますが、該当する街区が見つかりません。	情報の入っていない街区オブジェクトが存在するため、該当の街区オブジェクトが他の街区オブジェクトの下に隠れていると思われるので削除してください。	Ver5.2.0未満
		街区関係データのデータチェックでエラーが発生します。	街区番号リンクコードが重複登録されているため、重複部分の街区オブジェクトを削除し、再登録してください。	Ver5.2.0未満
4	建物オブジェクトの自動生成エラーについて	建物オブジェクトの自動生成ができません。	建物オブジェクトの形状が電子地図より取得出来ないため、使用されている電子地図に建物形状が登録されているか確認してください。	
4	建物オブジェクトについて	建物オブジェクト削除を行ったがオブジェクトが残っている。また、建物属性把握処理を実行すると、エラーが発生します。	不整合な建物情報が残っているため、キャッシュ作成を行ってください。	
4	建物オブジェクト分割について	DMとして取り込んだ建物を分割することはできますか。	電子地図より取得した建物オブジェクトの分割は電子地図の種類に関係なく可能です。	
4	住居(独立系)の階数について	住居(独立系)の階数は入力できないのでしょうか。	建物階数は、入力することができますが、住居(独立系)の騒音推計位置は、1F部分のみ設定可能です。	
4	建物高さの変更について	建物情報入力後に都市計画用途地域を変更した場合、既存の建物データ(建物高さ)は自動変更されますか。	都市計画用途地域を変更してもすでに設定された建物高さは自動変更されないため、建物情報入力から1件ずつ高さを変更して下さい。	
4	建物データの編集について	建物の戸数情報がある電子地図を使っている場合は、属性把握処理の後に、データ編集する必要がありますか。	建物戸数が登録されている電子地図を使っている場合は、電子地図が保有している建物戸数と実際の戸数と違う建物についてデータ編集を行ってください。	
4	建物の情報入力エラーについて	建物情報入力を行うとエラーが発生します。	建物用途レイヤのテーブルで不整合が発生しているため、不整合が発生している建物オブジェクトを削除して、再度オブジェクト作成を行ってください。	
		街区オブジェクトを選択しても、評価区間ポリゴンの色が黄色に変わらず、情報入力できません。	キャッシュ作成を再度実行してください。	Ver5.2.0未満
		建物関係データのデータチェックでエラーが発生します。	情報入力していない建物があるため、未設定の建物の情報入力を行ってください。	
		建物情報を修正すると、「サーバー更新中です」というエラーが発生します。	キャッシュを再作成してください。	
		自動取得をすると建物情報が全てその他になります。	初期設定の建物用途の設定を確認してください。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5. 3. 0 までが対象である。

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
4	建物チェック表について	建物チェック表を出力するのに、評価区間チェック表を利用するのはなぜですか。	建物チェック表は、集合住宅の現地調査のため利用するため、評価区間チェック出力確認(チェック)→インポートの手順が必要です。	
		建物チェック表に出力されるのは、集合住宅のみなのか、又、手作業で用途を変更すると、チェック表に出力されますか。	建物用途を集合住宅に変更後は、チェックシートに出力されます。	
		建物チェック表をエクスポートをしてもフィールド名のみ出力されデータが空になってしまいます。	建物チェック表は、集合住宅の現地調査のため利用するため、評価区間チェック出力確認(チェック)→インポートの手順が必要です。建物用途を集合住宅に変更後は、チェックシートに出力されます。	
		建物チェック表のエクスポートを実行したが、データが出力されません。	評価区間チェック表のチェックフラグが"1"になっていないため、データを修正し、再度建物チェック表を出力してください。	
		建物オブジェクトデータチェックを行うと、「tate.lclに登録されている建物オブジェクトはどの用途地域にも属していません。」が表示されます。	エラーが出ている建物が、都市計画区域外オブジェクトと重なっているため、該当建物を確認後問題が無ければ無視してください。	
4	建物属性把握について	集合住宅で属性把握のデフォルト階数別戸数と、配分の実行結果が異なるのはなぜか、又、どちらを信用したら良いでしょうか。	デフォルト戸数は電子地図より取得した戸数(評価対象外(道路に面する地域外)の戸数も含む)であり、該当の集合住宅が評価対象外にまたがった場合には評価対象内の戸数のみを配分するので、配分の実行後の結果が正しいです。	
		建物属性把握を行い集合住宅の戸数を確認したところ1戸数でした。	電子地図に該当建物の戸数情報がないか1戸数として登録されているため、建物情報入力から正しい建物戸数を入力してください。	
		推計を行う前に「沿道設定→10. 建物→(4)建物属性把握」を行うことは必須なのでしょうか。その際に、マンション等の階数別建物戸数の設定がクリアされることはありませんか。	<p>該当年度において、既に建物属性把握処理を行っている場合は、再度行う必要はありません。また、建物属性把握処理を再度行った場合、建物戸数情報を手動設定した建物についての設定はクリアされません。</p> <p>新規年度で建物ごとの騒音レベル推計を行う場合は、推計前に建物属性把握処理を行うことは必須です。また、建物属性把握処理では、前年度に設定した建物戸数データは引き継がないため、手動設定された建物についての設定はクリアされます(前年度のデータは保持しています)。</p>	
		建物属性把握の進行状況は100%になるが、終了メッセージが出力されず、フリーズしてしまいます。	処理するパソコンのCPU性能が不足していると思われるため、キャッシュを再作成して、一度に処理する量を少なくし、街区単位で建物属性把握を行ってください。	Ver5.2.0未満
		建物属性が入力できません。	<p>新たな街区オブジェクトを作成する際に、建物オブジェクトを残し、街区削除を行ったためです。</p> <p>建物情報と街区情報と異なっているために起こっていますので、建物オブジェクトを削除するか街区番号を建物情報の街区番号に合わせてください。</p> <p>なお、建物情報は、建物属性把握の編集画面で確認できます。</p>	Ver5.2.0未満
建物属性把握を行うと過年度データと異なる戸数が出力されました。なぜ、違うのでしょうか？	<p>基本的には同一地図、同一条件で建物属性把握を行うと同じ戸数になります。</p> <p>異なる場合には、修正されていたか、建物オブジェクトの頂点が正しく取れていない可能性があります。</p> <p>同一にする場合は、過年度の箇所については建物属性把握をしないでください。</p>			
4	窓面位置について	デフォルト窓面位置が道路に一番近い枠上以外にも設定されます。	建物ごとに窓面位置を設定した場合には、その地点が評価点となります。また、窓面位置を設定しない場合には、集合住宅以外の建物と集合住宅の先頭の距離帯部分に配分された住居はその距離帯と建物の中心点が評価点となり、集合住宅の2列目移行の距離帯部分に配分された建物は、建物中心点を建物の外側に1m出した点になります。	
4	印刷用メッシュについて	「印刷用メッシュ作成」が作成されません。またその後の複数メニューの「メッシュを選択して印刷」も出力されません。	市区町村エリアが作成されていないため、市区町村オブジェクトを作成し、市区町村情報を設定後、再度印刷用メッシュを作成してください。	
		「印刷用メッシュ作成」が作成されません。以前は、作成できましたが今回は以前より範囲が広がっています。	データベースの容量が2GBを超える場合、作成されなくなります。このため、手動で小さな市町村オブジェクト作成し、2回に分けて作成し印刷ください。	GISエンジンVre2.28 (accdb対応版)未満

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

1-5 区分5：要素設定（騒音設定）

区分5：要素設定（騒音設定）

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
5	騒音測定地点オブジェクトの作成について	騒音測定地点オブジェクト作成時に、「入力された道路情報が登録されていません」というメッセージが表示されます。	基準年度の設定に誤りがあるため、基準年度の設定を修正してください。	
		騒音測定地点を作成すると、「入力した騒音測定地点情報は既に存在しています」というメッセージが表示されます。	同じ評価区間番号の測定地点が既に存在しているため、枝番を変えて登録してください。	
		騒音測定地点を作成すると、「入力された道路情報が登録されていません」というメッセージが表示されます。	該当の評価区間情報が登録されていないため、評価区間情報を再登録してください。	
		騒音測定地点オブジェクトを削除する方法を教えてください。	「システム操作マニュアル(本編)」を参照してください。	
5	騒音測定地点の断面作成について	測定地点の断面作成ができません。	システムの断面設定が、同一センサ区間の途中で路線番号が変わっているため、以下の手順で変更及び再登録を行ってください。 ①道路平面線形情報入力において、路線番号を修正する。 ②センサデータ整理で、仮のデータを作成する。 ③センサ情報入力において、仮のデータで登録する。 ④評価区間情報入力において、再登録。 ⑤測定地点断面作成。 ⑥①～④の設定を元に戻す。	
		騒音測定地点のマイク設置位置等が変更になった場合、断面設定を変更すれば良いのでしょうか。	断面設定の変更と共に、騒音測定データの「車道端からの距離」、「道路敷地境界からの距離」等も修正してください。	
		道路断面を作成しているが、マイクの設定ができません。	断面設定のマイク作成は、騒音測定地点断面設定時のみ可能となっています。	
		本票の車道端からの距離に、路側帯の幅が含まれているように思われますが、良いのでしょうか。	車道端とは、車道と歩道(路側帯)の区別があるところでは車道側の歩道端としているため、路側帯の幅を含みます。	
5	騒音測定データについて	騒音測定データを入力し、「登録」ボタンをクリックしたが、交通量関係と背後地関係データの登録ができません。	市区町村コードが入力されていないため、市区町村コードを正しく入力し登録してください。	
		騒音データを入力しようとして「既に同一の一連番号は登録されています」とエラーメッセージが表示されます。	既に同一の一連番号が設定されていると思われます。一連番号を見直してください。システム内では一連番号はユニークである必要があります。	
		基準年度を2007に変更して、2007で登録した地点を騒音測定データのデータ入力画面で登録した後、エクスポートしてcsvデータの測定年月日等を変更し、インポートした場合は、変更が反映されますが、年度が2006のデータはd_soonにそのまま残っています。これを削除する方法が分かりません。Accessでテーブルd_soonから直接削除して良いのでしょうか。また、残っていても問題は無いのでしょうか。	システム上で2006年度の騒音測定データを削除するには、基準年度を2006に変更し、騒音測定地点オブジェクトを削除する方法しかありません。騒音測定地点を削除後、基準年度を2007に変更し、再度騒音測定地点を作成してください。テーブルから直接削除すると、データ不整合の原因となるため行わないで下さい。また、使用しない騒音測定データが残っていても、評価には影響はありません。	
		騒音測定データ入力で観測時刻の型が不正ですというメッセージが表示されます。	観測時刻のフォーマットが違っているため、フォーマットを合わせてください。	
		騒音測定データが入力できません。	騒音測定を行った評価区間情報が登録されていないため、評価区間情報を入力後、騒音測定データを入力してください。	
		騒音測定データが入力できません。	騒音測定地点を登録する評価区間データが沿道情報データ整理表に登録されているか確認してください。	
		誤って入力した騒音測定データを削除できますか。	騒音測定データ整理表より削除したいデータを選択し、削除ボタンで削除してください。	
		騒音測定地点の過年度データを残して、当年度の測定データを削除できますか。	騒音測定データ整理表より削除したい年度のデータを選択し、削除ボタンで削除してください。	
		推計処理前の騒音測定データ選択時に「指示した位置に評価区間オブジェクトが2つ以上存在します」というエラーメッセージが表示されます	評価区間オブジェクトが重複しているため、不要な方の評価区間オブジェクトを削除してください。	
		交通量を入力して登録したが、「交通条件観測時刻の型が不正です」というメッセージが表示されます。	時刻入力欄に「24:00」と入力しているため、時刻は「0:00～23:59」の範囲で再入力してください。	
		交通量の大型IIに「X」を入力できません。	大型IIには「-1」を入力してください。	
		システムの最新バージョンで騒音測定データを入力しても反映されません。	初期設定の基準年度が正しく設定されていないため、基準年度を再設定してください。	
		データチェックで二輪車のデータが入力されていませんと出ました。測定結果は0でした。どのようにしたらエラーは解決されますか。大型IIのように「-1」を入れるのでしょうか。	測定結果が0の場合問題ありません。エラーは無視してください。	
5	騒音測定データについて	騒音測定データの自動取得ができません。	測定地点オブジェクトと道路に面する地域オブジェクトが重なっていない箇所を選択したため、騒音測定地点選択時に、道路に面する地域オブジェクトと重なっている部分を選択してください。	
		沿道情報データ整理表にセンサ交通量関係の情報が登録できません。	H11センサからH17センサに移行した際に、区間番号が変わっているため、センサ番号、評価区間番号を修正してセンサ交通量関係の情報を登録してください。	
		騒音測定地点の「ローテーション」は何を意味するのでしょうか。	当該測定地点について、何年毎に測定しているかを示すものです。「騒音規制法第18条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」(平成23年9月14日 環水大自発第110914001号)および自動車騒音常時監視結果の報告要領を参照ください。	
		例えば、2007年度の処理をする場合に、過去のデータは、dorodb.mdb内のものが使われると考えて、データ入力する地点は、2007年度に測定した地点のみを入力すれば良いのでしょうか。	そのとおりです。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

# 1-6 区分6：騒音推計

区分6:騒音推計

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
6	騒音測定データ選択について	騒音基準位置の騒音測定データ選択は、年度の情報が含まれているので、毎年、全評価区間について選択・登録を実施することが必要なのでしょうか(地点番号で最新のものが自動的に判断されるということにはならないのでしょうか)。	同じ騒音測定地点において、年度により地点番号が異なる場合があります。新たに騒音測定データを登録した地点については、関係する全ての騒音基準位置の騒音測定データ選択を実施する必要があります。	
		騒音測定データ選択で騒音測定地点データで年度が古いままの場合その年度の騒音データが使われることになるのでしょうか。	そのとおりです。	
		騒音基準位置の測定データ選択を行うと、エラーが表示されます。	評価区間情報が登録されていないため、評価区間情報の再入力を行ってください。	
6	データチェック後の修正方法について	データチェックをすると「ER0246 騒音基準位置オブジェクトのリンクコードが設定されていません」というメッセージが表示されますが修正方法を教えてください。	騒音基準位置オブジェクトのリンクコードがないため、再度騒音基準位置オブジェクトの再作成ください。	
6	騒音推計前の測定データ選択について	基準年度を2005として、騒音測定データを入力した後、騒音推計前の測定データ選択すると「指示した騒音基準位置には評価区間整理表データが存在しません」というエラーが表示されます。	2005年度の沿道情報データ整理表が作成されていないため、基準年度を2005にして評価区間情報入力を行ってください。	
6	基準点騒音レベル確定値について	基準点騒音レベル確定値にデータが自動設定されません。	騒音発生強度の把握の方法1:沿道騒音レベルの実測による方法による区間については自動設定されますが、それ以外の区間については自動設定されませんので、手動で登録を行ってください。なお、Ver3.3.2より自動設定されるようになっていきます。	
6	過去年度について	過去年度のデータを参照しようとすると、「データがありません」というメッセージが表示されます。	基準年度の設定が正しくないため、基準年度を正しく設定ください。	
6	基準点騒音レベルの推計について	基準点騒音レベルの推計を行うとエラーが表示されます。	評価区間情報の道路種別が登録されていないため、登録されていない評価区間にセンサ情報入力、評価区間情報入力を再度行ってください。	
		基準点騒音レベルの推計を実行すると、「評価区間番号0-1の道路種別を確認してください」というメッセージが表示され、評価区間0-1は作成されていません。	評価区間線形オブジェクトが重複しているため、重複している評価区間線形オブジェクトを削除してください。	
		基準点騒音レベルの推計を行うとエラーが表示されます。	騒音測定地点の断面が正しく設定されていないため、エラーが発生している騒音測定地点断面の、車道部プロバイド及び官民境界等が正しく設定されているか確認してください。	
		評価対象道路の騒音測定を実施していない(下り側)の騒音基準位置の騒音測定データの選択を騒音測定を実施した(上り側)の騒音測定データを選択後、基準点騒音レベルの推計を実施すると、下り側確定値が「0.0」となりますが、なぜでしょうか(この際、基準点騒音レベルの確定の表で「発生強度把握の方法が「0」になっています」)。	基準点騒音レベル実測値、推計値の欄に値が入っていないため、騒音基準位置の騒音測定データの選択を再度行ってください。	
		実測値がある側とない側の歩道幅員等が大きく異なる場合、実測値がない評価区間の基準点騒音レベルも実測値側と同じとみなし同じ値を設定すると記載されていますが、実測値がない側の基準点騒音レベルの修正は、横断構成などから距離減衰等により推計した値を手動入力することで対応すれば良いのでしょうか。	騒音測定を実施した上り側と測定していない下り側で道路構造や道路舗装が違う場合には騒音発生強度が変わります。以下の方法より設定してください。 ①上り側の測定データを選択した場合は「下り側基準点騒音レベル推計値(実測値補正)」で道路断面データからの距離減衰量を計算し自動で設定されます。 ②妥当と思われる他の騒音測定データを選択した場合は必要に応じて「基準点騒音レベル 推計値(ASJ RTN-Model 2008)」を参考に補正し設定してください。	
		基準点騒音レベルの推計でエラー「基準点騒音レベルの推計に失敗しました」のメッセージが表示されます。	基準点騒音レベル推計ログ(workフォルダ内の(基準点騒音レベル推計ログ,Th*.log))を確認してください。ログにて「**を確認してください」と出力されている項目(**)について、エラー対象評価区間の設定内容を確認・修正してください。	
		推計を実行しても、すぐに終わってしまいます。	騒音測定データが選択されていないため、騒音測定データの選択をし、基準点騒音レベルの推計および確定を実施後に再度推計を行ってください。	
		一部の評価区間の推計が計算されていません。	センサ情報に指定最高速度が未設定のため、指定最高速度を設定し、評価区間の情報入力を再登録後に再度推計処理を行ってください。	
		発生強度把握の方法で3に設定しましたが、推計できません。	基準点位置を設定してください。なお、「騒音測定データ選択」は必要ありません。	
	基準点情報の登録処理でエラーが発生します。	エラーが発生している評価区間の併設道路の情報が下位データに登録されているため、評価区間情報の修正を行ってください。		

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

区分6:騒音推計

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
6	建物の推計について	指定評価区間で推計処理が行われません。	センサ関係データの道路種別が不一致となっていたため、道路種別を確認し、正しい道路種別に変更してください。	
		住居等建物の騒音レベル推計結果が騒音測定の実測値を超えている建物が存在します。	道路に遮音壁がある場合や道路構造が盛土の場合、実測点では音源から回折された音が伝播され、音源と建物の位置の関係によっては音が建物へ回折無しに伝播する等の場合があります。従って、音の回折効果によっては建物の騒音レベルが実測値を超えることがあります。	
		ASJ RTN-Model 2008のパワーレベル算出パラメータの走行条件は、どこで設定されているのでしょうか。	評価区間情報入力画面に設定項目があります。	
		集合住宅の前に立地する住居の高さによって、集合住宅の予測値は変化しないのでしょうか。	システムでは日本音響学会「道路交通騒音の予測モデル」ASJ RTN-Model 2008により建物を推計しています。その際にユニットパターンでの騒音推計では、各音源から推計する建物までの直線の間に最も高い建物を障害物とみなし、回折補正量を計算します。音源と集合住宅の間に建物が立地している場合は、その立地する建物の高さに応じて回折補正量を計算しますので集合住宅の予測値は変化します。	Ver4.1.0未満
		「騒音に係る環境基準の評価マニュアルⅡ. 地域評価編(道路に面する地域) P37」によれば、沿道建物の立地密度の疎密によって、疎の場合:見通し角による推計、密の場合:間隙率と立地密度による推計、となっていますが、当システムでは、粗密の定義はどの様になっているのでしょうか。また、粗密で推計方法は異なっているのでしょうか。	面的評価支援システムでは、騒音に係る環境基準の評価マニュアルⅡ. 地域評価編(道路に面する地域) で示されている騒音推計方法ではなく、日本音響学会「道路交通騒音の予測モデル」ASJ RTN-Model 2008により建物騒音レベルを推計しています。	Ver4.1.0未満
		センサ交通量は昼12時間(7~19時)、夜12時間(19~7時)、環境基準は昼(6~10時)、夜(10~6時)ですが、当システムでセンサ交通量から推計する際は時間帯別交通量をどの様に分けているのでしょうか。	センサ交通量は以下のように分けています。 ①昼間交通量=昼間交通量+(夜間交通量×1/3) ②夜間交通量=(夜間交通量×2/3)	
		「騒音暴露状況の住居等別の一括表示」で図示される個別建物の騒音レベルは、その建物での距離別階数別騒音レベル値の「最も大きい値」と考えて良いのでしょうか。	「騒音暴露状況の住居等別の一括表示」では昼夜別または建物階数別に建物騒音レベルを表示しています。なお、集合住宅の場合は昼夜別・建物階数別に道路に面する側の建物の騒音レベルを代表として表示しています。	
騒音暴露状況の住居等別の一括表示を行うと、道路近傍騒音の測定結果よりも高い結果がでています。	断面データの路線情報が設定されていないため、断面データを修正し、基準点騒音レベル確定値を再度確認してください。その後、推計、一括表示用のレイヤを作成してください。			
6	騒音レベル合成について	当ページに示されている騒音レベル合成は、「騒音に係る環境基準の評価マニュアルⅡ. 地域評価編(道路に面する地域) P21」に示す「ユニーク化」を行っていると考えれば良いのでしょうか。	そのとおりです。	
		評価対象道路が交差する交差点部分で、評価対象道路1は「交通量及び速度調査が有」、「騒音測定結果が無」です。評価対象道路1からの騒音を考慮する場合は、 ① 評価対象道路1について、道路設定、沿道設定(騒音発生強度の把握の方法3:自動車の交通量及び速度の実測結果により推計する方法を選択、評価区間を青い部分に設定)、騒音設定、騒音推計を実施。 ② 評価対象道路2について、道路設定、沿道設定(騒音発生強度の把握の方法1:沿道騒音レベルの実測による方法を選択、評価区間内の街区を交差点部分の50mで区切り設定)	ご質問のとおりの設定をすれば、両路線の騒音を考慮した評価が可能です。	
6	推計の実施のエラーについて	沿道の起伏(民地側)は騒音推計結果には反映されないと考えて良いのでしょうか。	沿道の起伏は推計結果には影響しません(建物の地上高さは、騒音基準位置の基準点高さと同じ値が設定されます)。	
		システムVer2.1.0基準点騒音レベルの推計が途中で止まってしまいます。	評価区間整理表データに不整合なデータがあるため、不整合なデータを削除してください。 なお、Ver3.1.1以降ではエラーリストを出力しますので、リストの区間のデータを確認の上、表示区間のデータを見直してください。	
		騒音推計を実施すると、アプリケーションエラーが発生します。 ①初期設定されていなかった。 ②断面の境界線が片側しか設定されていなかった。 ③昨年に約40本路線を登録している。 ④今年新たに2、3評価区間を評価。 ⑤昨年設定したデータには、データチェックでエラーが多数ある。	データチェックのエラーが解決できていないため、エラー解決後再度推計処理を行ってください。	
		推計の実施でアプリケーションエラー発生します。	騒音測定地点、及び評価区間の標準断面が正しく設定されていないため、標準断面を設定してください。	
		騒音実測値を利用しない推計の手順を教えてください。	騒音発生強度の把握の方法について「騒音規制法第18条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」(平成23年9月14日 環水大自発第110914001号)に記載していますので参照ください。 また、システム操作についてはシステム操作マニュアル(本編)を参照ください。	
推計中に「データベースに接続できません。」とエラーが出る。	パソコンの使用CPU数と建物数の関係から発生していると考えられますので以下の作業を行ってください。 評価区間・街区と小さな区間で推計して見て下さい。それでもダメな場合は、パソコンの使用コア数を1つで実施して下さい。			

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
6	基準点騒音レベルの確定値について	基準点騒音レベルの確定値を算出する方法を教えてください。	<p>基準点騒音レベル確定値の求め方について。 以下に確定値の求め方を記載しますが、詳細は「システム操作マニュアル(本編)」を参照ください。</p> <p>① 騒音発生強度の把握の方法1:沿道騒音レベルの実測による方法</p> <p>(a) 騒音測定位置が道路敷地境界(基準点位置)の場合 実測値をそのまま使用する。ただし測定側と反対側については実測値を基にASJ RTN-Model 2008にて「基準点騒音レベル 推計値(実測値補正)」のセンサス交通量に示される値を参考に設定する。</p> <p>(b) 騒音測定位置が道路敷地境界(基準点位置)以外の場合 実測値を基にASJ RTN-Model 2008にて「基準点騒音レベル 推計値(実測値補正)」のセンサス交通量に示される値を設定する。</p> <p>② 騒音発生強度の把握の方法2:他の評価区間における騒音測定結果を準用する方法</p> <p>(a) 準用元の実測値区間の「基準点騒音レベル 推計値(ASJ RTN-Model 2008)」のセンサス交通量の値と準用する「基準点騒音レベル 推計値(ASJ RTN-Model 2008)」のセンサス交通量の値の差を求める。 上記の値を準用元の「基準点騒音レベル 確定値」に補正して確定値を求める。</p>	
		<p>注意に「騒音発生強度の把握の方法1:沿道騒音レベルの実測による方法以外については、基準点騒音レベル確定値が自動設定されません。騒音発生強度の把握の方法2(他の評価区間における騒音測定結果を準用した)値をASJ RTN-Mode2008における推計値を参考にして入力してください」とありますが、推計値はどこを見れば良いのでしょうか?「基準点騒音レベルの確定 編集」フォームの「基準点騒音レベル 確定値」のことでしょいか。</p>	<p>基準点騒音レベル推計値(実測値補正)または、基準点騒音レベル推計値(ASJ RTN-Mode2008)のことです。</p>	Ver4.1.0未満
		<p>騒音レベルの確定で注意に騒音発生強度の把握の方法1(沿道騒音レベルの実測による方法)以外の地点については、騒音レベル確定値が自動設定されないでASJの推計値を参考に入力するとありますが、検索で表示された評価区間の一覧で確定値が0でなければ良いということでしょうか。</p>	<p>一覧画面で、騒音発生強度の把握の方法1(沿道騒音レベルの実測による方法)以外の区間の基準点騒音レベル確定値が0でない場合は、基準点騒音レベル確定値が登録済みであることを意味します。</p>	
		<p>全評価区間について確定値の登録をするのでしょうか(自動的には確定しないのでしょうか)。</p>	<p>全評価区間について基準点騒音レベルの確定値を設定してください。 騒音発生強度の把握の方法1(沿道騒音レベルの実測による方法)による区間については自動設定されますが、それ以外の区間については自動設定されませんので、手動で登録を行ってください。</p>	
		<p>確定値で非常に高い値が設定されます。どうしてでしょうか 過年度データと異なります。どの様にしたら良いのでしょうか。</p>	<p>Ver.3.2.0では、利用者が決定した基準点確定値を入力していたが、Ver3.3.2では自動的にセンサス交通量から実測地点での推計値を算出し、実測値と推計値の差から補正値を求め、その補正値を準用地点での推計値に足し、確定値を求めています。 このため、実測地点での推計値と実測値が大きく異なる場合に発生します。 この様な場合は、適切な値を確定値に入力してください。</p>	
6	背後地建物の騒音レベルについて	<p>背後地建物騒音レベルの推計結果が残留騒音レベルの設定値より高くなるのはなぜでしょうか。</p>	<p>背後地建物騒音レベルは推計値に残留騒音レベルを合成しているためです。</p>	
		<p>背後地建物騒音レベルの推計結果が残留騒音レベルより10dB以上高いのはなぜでしょうか。</p>	<p>騒音測定の実測値が高い場合や沿道建物の立地状況によっては、直達音等の影響により、残留騒音レベルより10dB以上高くなることはあります。</p>	
		<p>残留騒音レベルの確定画面で、確定ボタンをクリックすると、「残留騒音レベルが基準点騒音レベル確定値を超えているため、登録できません。」と表示されます。</p>	<p>システムでは基準点騒音レベルより残留騒音レベルの方が騒音レベルが高い場合にはエラーを返す仕様です。該当区間の基準点騒音レベル確定値が"0"になっているため、基準点騒音レベル確定値のデータを正しい値に修正してください。</p>	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョンVer5.3.0までが対象である。

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
6	データチェックについて	データチェックでオブジェクトやデータ項目のチェックをすると、評価区間や街区等でエラーが表示されますが、評価には問題のないエラーなのでしょうか。	エラー内容によっては、評価に問題が発生する場合があります。	
		データチェックのオブジェクトのチェックは、沿道状況等を変更しない場合、騒音測定地点のみ実施すれば良いのでしょうか。	更新したデータのみデータチェックを実施してください。	
		データチェックのデータ項目のチェックは、騒音測定データ整理表のみ実施すれば良いのでしょうか。	更新したデータのみデータチェックを実施してください。	
		全データをエクスポートするのは年度を削除して無指定にすれば良いのでしょうか。	そのとおりです。	
		建物オブジェクトデータチェックで、環境基準類型指定なしのエラーの修正はどうすれば良いのでしょうか。	環境基準類型指定なしで問題なければ無視してください。	
		データチェックで出力されるエラーの対処方法を教えてください。	システム操作マニュアル(本編)を参照してください。	
		データチェック結果のリンクコードとは何を意味するのでしょうか。	リンクコード検索機能で利用します。	
		10数箇所において「ERROR 道路近傍騒音 推計方法が設定されていません。」が表示されます。	街区内に評価対象建物(住居系)が存在しないため、エラーが出力された箇所に評価対象建物が存在しているか確認してください。また、確認後評価対象建物が存在しない街区の場合は、該当街区に関するエラーを読み飛ばしてください。	
		沿道情報データ整理表データチェックを行うと、「縦断勾配補正が設定されていません。」が表示されます。	縦断勾配が“0”で登録されているため、データを確認後に問題なければ無視してください。	
		騒音測定データ整理表データチェックを行うと、「定点・準定点が設定されていません。」が表示されます。	測定地点データに不整合が起こっているため、騒音測定地点、騒音測定データを再設定してください。	
6	交差道路の設定について	距離帯オブジェクト、道路に面する地域オブジェクトのデータチェックを行うと、オブジェクトが存在しない評価区間のエラーが表示されます。	評価区間関係データに不整合が起こっているため、道路に面する地域データの最適化を実行してください。	
		常時監視フォーマットの照査結果で、推計方法が設定されていないというメッセージが表示されます。	ローテーションが設定されていないため、ローテーションを入力し再度推計を実施してください。	
6	交差道路の設定について	前年度の評価区間と今年度の評価区間が交差する場合、騒音レベルを合成することは可能でしょうか。	システムでは、前年度の建物ごとの騒音レベル結果を今年度利用することはできません。そのため、前年度の評価済みの区間については、今年度のデータとして情報入力、建物属性の把握、再評価が必要となります。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 ままでが対象である。

## 1-7 区分7：常時監視フォーマット

区分7:常時監視フォーマット

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
7	常時監視フォーマット出力について	常時監視フォーマット出力において測定地点データの一部が出力されません。	測定地点データの登録後、常時監視フォーマットの再作成処理が行われていないため、常時監視フォーマット作成を再度行ってください。	
		建物は存在するのに、常時監視フォーマットの下記項目に“0”が入っています。	該当区間の属性把握処理が実行されていないため、再度建物の属性把握を行ってください。	
		様式1-1に出力されない区間があります。	該当評価区間の沿道情報データ整理表と、騒音測定データ整理表の評価対象外フラグが“1”になっているため、フラグを“0”に戻し再度常時監視フォーマット作成を行ってください。	
		様式1-2の戸数が異なっている	重複区間において、建物用途が異なっているため、建物用途を正しく設定し、再度推計、常時監視フォーマット出力を行ってください。	
		常時監視フォーマット出力後、面的評価結果を確認すると、「残留騒音レベルが設定されていません」と出力されます。	該当区間の基準点騒音レベル確定値が“0”になっているため、基準点騒音レベルのデータを修正後、残留騒音レベルの設定を行ってください。	
		様式1-2に、交差していない評価区間が表示されたり、1行しか表示されなかったり、戸数に負の値が入っています。	建物データに不整合なデータが存在し、重複区間で建物用途が異なる建物が存在するため、建物データを修正してください。	
		常時監視フォーマット作成を行うとエラーが発生します。	一部の騒音基準位置に測定データが選択されていないため、全ての騒音基準位置に測定データを選択してください。	
		常時監視フォーマットを作成したがデータが登録されない評価区間があります。	センサデータと評価区間データの道路種別が異なっているため、道路平面線形要素、センサ区間、評価区間の情報入力にて修正してください。	
		常時監視フォーマットを作成したときに、今年度は報告しない評価区間情報を削除する方法を教えてください。	該当評価区間の沿道情報データ整理表と、騒音測定データ整理表の評価対象外フラグを“1”に修正してください。	
		様式1-1において、住居等戸数が“0”戸で出力される区間があります。	該当区間において、建物情報が登録されていないため、建物属性把握処理、騒音推計処理を再度実行してください。	
		様式2-1において、測定年月日が違うデータがあります。	基準年度を該当の年度に設定し、騒音測定データを修正してください。	
		一部の評価区間の常時監視フォーマットが作成できません。	道路種別が正しく設定されていないため、正しい道路種別を設定ください。	
		一部の評価区間で、実際には重複されていない区間なのに、常時監視フォーマットの報告様式1-2評価重複再掲にデータが出力されます。逆に重複区間は、出力されません。	建物情報が異なる街区で重複しているため、重複して情報入力されている建物の情報のどちらか一方を削除してください。	
		常時監視フォーマット作成を行うとエラーが表示されます。	基準年度が正しく設定されていないか、沿道情報データ整理表の道路種別が正しく設定されていないため、基準年度と沿道情報データ整理表の道路種別をご確認ください。	
		様式2-1の用途地域コードが設定した値と違います。	設定されたコードを報告用コードに変換しているためです。	
		指定出力とデータ管理の常時監視フォーマットは同じものでしょうか。	同じものです。	
		様式1-2を出力すると、重複していない区間も記載されます。	建物データに不整合なデータが存在しているため、データ(dorodb及びulayer)に不具合がある可能性があります。この場合は問合せ願います。	
		様式1-2の重複計上の建物戸数がマイナスになります。	交差道路の片側の評価区間情報がないため、評価区間情報入力を再度正しく登録を行ってください。	
		路線別建物状況整理表から評価した結果と様式3-2の結果が一致しません。	路線別建物状況整理表には、評価区間ごとに住居系と非住居系の建物が全て登録されています。また、様式3-2には、重複形状される建物は計上していないことと、住居系の戸数のみ計上しています。	
指定区間の建物情報を削除し、常時監視フォーマットを出力されないようにする方法を教えてください。	不要な評価区間の線形を削除してください。沿道データ整理表において、修正でチェックフラグを“1”にし、再度フォーマットを作成してください。			
常時監視フォーマットに出力されていない区間があります。	センサの道路種別が、道路と評価区間の間で異なっているため、道路データ整理表と沿道データ整理表を編集してください。			

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

区分7:常時監視フォーマット

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
7	常時監視フォーマットの照査エラーについて	常時監視フォーマットの照査を実行すると、以下のエラーが発生します。 ①騒音測定箇所番号が設定されていません(道路近傍騒音) ②推計方法が設定されていません(道路近傍騒音) ③等価騒音レベル(昼間)が設定されていません(道路近傍騒音) ④等価騒音レベル(夜間)が設定されていません(道路近傍騒音) ⑤昼間が設定されていません(残留騒音レベル) ⑥夜間が設定されていません(残留騒音レベル)	基準年度の変更に伴い、沿道データの変更がされていなかったため、建物属性把握を実行してください。	
		常時監視フォーマットの照査を行うと、エラーメッセージが表示されます。	街区の市区町村コードが登録されていないため、街区情報を再登録してください。	Ver5.2.0未満
		常時監視フォーマット(街区単位)で、「ERROR 道路近傍騒音推計方法が設定されていません」と出力されます。	エラーが示す街区内に評価対象建物(住居系)が存在しないため、エラーが出力された街区に評価対象建物が存在しているか確認ください。また、確認後評価対象建物が存在しない街区の場合は、該当街区に関するエラーを読み飛ばしてください。	Ver5.2.0未満
		常時監視フォーマット(交通量関係)で、「ERROR 騒音測定反対側二輪が設定されていません。」が出力されます。	システムではエラーが示す測定地点の交通量が「0」で入力されていても、0なのか未入力なのか判定できないため確認の意味を含めてエラー表示としています。入力値が「0」で問題なければ、エラー内容は無視してください。	
		常時監視フォーマットの照査で「推計方法が設定されていません」というエラーが表示される街区があります。	評価対象建物(住居系)が存在しないため、エラーが出力された街区に評価対象建物が存在しているか確認ください。また、確認後評価対象建物が存在しない街区の場合は、該当街区に関するエラーを読み飛ばしてください。	
7	常時監視フォーマット(街区単位)エラーについて	常時監視フォーマット(街区単位)でエラーが発生します。	街区内に評価対象建物(住居系)が存在しないため、エラーが出力された街区に評価対象建物が存在しているか確認ください。また、確認後評価対象建物が存在しない街区の場合は、該当街区に関するエラーを読み飛ばしてください。	Ver5.2.0未満
7	報告書の戸数について	環境省報告書の様式3-1と3-2の全体戸数が違っているのはどうしてですか。	様式3-1は「道路種別」別で、戸数を計上しているため、重複している建物戸数が重複掲載されます。様式3-1は重複している建物戸数を掲載していません。	
		常時監視フォーマットを作成後、データを確認すると、戸数が合いません。	路線別建物状況整理表に不整合のデータがあるため、不整合なデータを削除し、また、同一評価区間で建物は1つの街区に属するように修正してください。	
		ver5.0.0とver5.2.2での評価結果が変わりました。	Ver.5.0.0における推計は、官民境界からの距離が(0m又は5m)、15m、25m、35m、45mといった距離で推計計算を行っていましたが、ver.5.2.0以降では建物の壁面の距離で計算を行うよう変更されています。そのため、再推計を行うと結果が変わってくる可能性があります。	ver5.2.0以降
7	報告書の作成について	報告書の作成は、指定出力の常時監視フォーマットのエクスポートで良いですか。	指定出力の常時監視フォーマットのエクスポートで、様式ごとのCSVファイルが出力されますので、出力したファイルの内容を報告用のEXGELファイルにコピーしてください。	
		指定出力のGISファイル出力で出力されるファイルは、GISデータファイル作成要領に基づいていますか。	システムでは最新の環境省報告要領(GISデータファイル作成要領)に基づいてファイル出力しています。	
7	常時監視フォーマットのデータについて	非近接空間において環境基準値を超過する建物が存在するが問題ないのでしょうか。	非近接空間においても条件によって環境基準値を超過するケースはあり得ます。	
		騒音測定地点の騒音測定年度が考えていたデータと違って(過去年度になっています)。	騒音測定データの選択において、過去年度のデータを選択しているため、騒音測定データの選択は正しい年度の測定地点のデータを選択してください。	
7	常時監視フォーマットのエラーについて	常時監視フォーマットのデータチェックにおいて、「道路近傍騒音等価騒音レベルが設定されていません。」というメッセージが表示されます。	街区情報と建物情報が一致していない箇所があり、データベース上建物がない街区が発生しているため、街区情報と建物情報を確認してください。	Ver5.2.0未満

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

# 1-8 区分8：結果活用

区分8：結果活用

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
8	騒音暴露状況の住居等別の一括評価	交差点部の建物に評価結果が2つ表示されます。	ver5.2.0以降、街区がなくなったため、評価区間ごとの推計結果が振られるため2つの評価結果が表示されます。	Ver5.2.0以降
8	環境基準達成状況の評価区間別の一括評価について	環境基準達成状況の評価区間別の一括評価において、何も表示されません。	住居密度が凡例の範囲内に収まっていないため、初期設定(評価区間)のレンジを修正し一括表示用レイヤの作成を再度実行してください。	
		環境基準達成状況の評価区間別の一括評価のレイヤが表示されません。	環境基準達成状況の評価区間別の一括評価のレイヤが作成されていないため、再作成を行ってください。	
		環境基準達成状況の評価区間別の一括評価の表示/印刷において評価区間内が色付けされません。評価が正しく行われていないのでしょうか？集計結果には達成率は表示されます。しかし達成率が6~62パーセントと低い結果になっています。	初期設定の「住居密度」の設定後、環境基準達成状況の表示用のオブジェクトが作成処理がおこなわれていないため、一括表示用レイヤの作成処理を再度行ってください。	
		一部の評価区間番号の推計結果の建物別騒音レベルが“0”になってしまいます。	センサ情報に未設定項目があるため、不足項目を設定し、評価区間の情報入力を再登録後に再度推計処理を行い、一括表示用レイヤ作成を行ってください。	
		騒音レベルがマイナスになってしまいます。	基準点騒音レベル確定値が登録されていないため、正しい基準点騒音レベルの確定を行ってください。	
		建物が表示されません	環境基準達成状況の評価区間別の一括評価では、建物は表示されません	
8	建物騒音レベル修正後の一括評価への反映について	住居の騒音推計結果の変更は可能でしょうか。可能な場合、どの部分で数値を変更すれば、全結果(評価区間別の一括評価等)に反映されるのでしょうか。	住居等建物の騒音推計は、基準点騒音レベル確定値および断面図(騒音発生強度の把握の方法1では騒音測定地点の断面図、それ以外は評価区間の断面図)を基に日本音響学会「道路交通騒音の予測モデル「ASJ RTN-Model 2008」」により建物を推計しています。従って、基準点騒音レベル確定値または断面図を修正することで変更されます。	
8	評価結果表示用エラーについて	「(1)騒音暴露状況の住居等別の一括表示」の作業を行っている際、エラーが出ました。	データベースにおいて、リンクコードの不整合が発生しています。	
8	GISファイルについて	いくつかの建物において評価結果(推定値)が2個表示されます。道路に面する地域からオブジェクト作成のやり直しを何度か試みましたが、数値が消えません。対応方法を教えてください。	「騒音推計」、「6-一括表示用レイヤの作成」、「騒音曝露状況の住居等別の一括表示」において「都道府県」をチェックし、再度作成を行ってください。	
		報告年度を変更すると、GISデータが出力されません。	変更した年度の情報が作成されていないため、評価区間、騒音測定地点の情報入力での再登録と基準点の騒音測定データ選択を行ってください。	
8	集計結果について	GISデータをシステムで表示するにはどうしたら良いでしょうか。	操作マニュアル(本編)を参照ください。	
		ある評価区間において、建物の騒音レベルが全て70dB未満となっているが、昼夜間とも基準値以下の他に、昼間のみ基準値以下となる建物があるのはなぜでしょうか。	昼間の騒音レベル値は環境基準値以下ですが、夜間の騒音レベル値が環境基準値(65dB)を超過しているためです。	
8	評価結果について	評価結果の検証はどうすれば良いでしょうか。	システムには建物の騒音暴露状況、評価区間ごとの達成状況、騒音レベル等高線、騒音レベル減衰断面図を表示する機能があります。その機能を活用して、基準点騒音レベル値や建物の立地状況から推察して評価結果を検証ください。	
8	評価対象戸数について	過年度(平成16年度)に報告した評価区間を今年度(平成17年度)に再度報告したが、過年度と比較して評価対象戸数が変わってしまいます。	システムでは、住居等の建物戸数の把握の方法を見直した経緯があります。そのため、システムのバージョンアップにより住居等の建物戸数の把握の方法が異なり戸数が変わる場合があります。 Ver1.1.11 → Ver1.1.12 (交差街区内の集合住宅の集計処理を修正したことによる) Ver1.1.12 → Ver2.0.0 (発生強度4における近接・非近接空間ごとの建物戸数を自動取得する機能を追加したことによる) Ver2.1.0 → Ver3.0.0 (GISエンジンを更新したことにより、建物属性把握処理を修正したことによる) Ver3.0.0 → Ver3.1.0 (建物情報を自動で取得する機能を追加したことによる) Ver3.1.0 → Ver3.1.1 (建物属性把握処理の不具合を修正したことによる) Ver3.1.1 → Ver3.2.0 (その他道路に対する集計方法の変更したことによる)	Ver3.3.0未満
8	位置図・詳細図等について	登録している全ての地点について詳細図(騒音測定地点の平面図・横断面図)を、地点番号順に出力することはできるのでしょうか。	全ての地点を出力する場合は、地点番号(一連番号)順で出力できます。	
		位置図(騒音測定地点・評価区間)の凡例と位置図を1つのpdfファイルにするにはどのようにすれば良いでしょうか。	システムでは、位置図と凡例を1つのpdfファイルに保存することはできません。システムから位置図と凡例を異なるpdfファイルに保存し、pdfファイル編集ソフト等で編集してください。	
8	データ管理について	位置図を表示する(ズーム1%~25%にする)と、背景の地図が表示されません。	地図の表示範囲の設定によるため、初期設定-2. GIS地図設定で地図の表示範囲の設定をしてください。	
		「データ管理」→「入力・出力・印刷の管理」→「騒音測定データの整理表」→2006~2006指定を削除→エクスポート→新年度のデータ追加→インポートの手順で良いでしょうか。	インポートする前に全データをエクスポートする必要はありません。また、インポートするファイルには、新規データのみ保存してください。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。

区分	タイトル	問合せ内容	対応	対応する支援システムのバージョン
8	過年度データ移行について	県のデータを過年度移行し、対象外である自治体の建物オブジェクトを削除したのですが、対象外自治体の住居等別の評価結果が表示されています。これを消すことができますか？	「騒音推計」の「一括表示用レイヤーの作成」で「騒音暴露状況の住居等別の一括表示」を都道府県で実行してください。	
		県のデータを過年度移行しようとするのですが、市町村が表示されません。	市町村オブジェクトが作られていないためです。対象の市町村オブジェクトを作成後、過年度移行を行ってください。	
		過年度データの移行はどうしたら良いのですか？	操作マニュアルの「IVシステムと機能 9-2」に記載してあります。初期設定で設定した基準年度にデータを移行します。	
		過年度データの移行が出来ません。	市域外にオブジェクトが一部はみだしています。市町村オブジェクトを広げてください。	

※対応する支援システムのバージョンが空白の欄は、最新バージョン Ver5.3.0 までが対象である。